

熊本 SJCD 抄録

演題 矯正治療との併用で補綴処置を単純化し咬合の再構成をした症例
演者名 前田明浩
日付 2013年7月23日(火)
Key Word 1. 矯正 2. 補綴治療の単純化 3. 咬合の再構成

患者 20歳 女性 初診 2010年3月 主訴 歯並びを直したい

症例の概要

骨格性下顎前突と叢生、左上2・3の移転歯、右上1番左上1番2番の短根を認め、アンテリアガイドランスの不良を認めた症例に対し、矯正治療を併用し補綴治療を単純化し咬合の再構成を行い、併せて主訴である審美性の改善も図った。

診断、治療計画

主訴である審美性の改善を補綴治療のみで達成する事は予後も含めて困難と診断した。

そのため矯正治療を併用して補綴治療を単純化し、咬合の再構成と主訴である審美性の改善を図る計画とした。

治療

まず歯牙配列のスペース確保のために短根で予知性の低い左上の1番とC、右上と左右下顎の4番を抜歯し、矯正治療を行った。矯正治療後左上1番に3番にのみ補綴を行い咬合の再構成と審美性の改善を図った。

治療期間は2年半。

まとめ

矯正治療を併用したことで補綴治療を単純化できた。
補綴治療が単純化できたことで患者、術者双方に治療のストレス軽減や予知性の向上などのメリットが生まれたと思う。

今後は右上1番と左上2番が短根のため注意深く咬合の観察と調整が必要であると考えます。

また、この症例を通じて、歯列、咬合不正がありアンテリアガイドランスの不良を認める成長期の子供たちに対しては、より積極的に矯正治療を勧めていきたいとも思った。

本症例に対する皆様からのご意見、ご助言をお願い致します。